

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No20(心理学)

#8 青年期のアイデンティティ研究の最先端 —畑野快先生（大阪公立大学准教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



畑野 快
はたの かい

大阪公立大学 准教授
国際基幹教育機構／現代システム科学研究科

大阪教育大学教育学部卒。京都大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。
2014年から大阪府立大学高等教育推進機構に着任、大阪市立大学との統合を経て2022年から現職。

Journal of Youth and Adolescence: Editorial Board
Journal of Adolescence: Assistant Editor

著書としてHatano, K., Sugimura, K., Crocetti, E., & Meeus, W. (2020). Diverse-and-dynamic pathways in educational and interpersonal identity formation during adolescence: longitudinal links with psychosocial functioning. *Child Development*, 91 (4), 1203-1218. など



それではご覧ください

アイデンティティ

個人が自分の内部に**連続性**と**斉一性**を感じられることと、**他者がそれを認めてくれること**の、**両方の事実の自覚**

アイデンティティ

- 自分らしさ、自分が自分であること
- 自分らしさを支えているのは？
- 過去の“自分”の経験
- これからの“自分”の見通し
- 過去・現在・未来の**時間的連続性**から自分という感覚を得ている

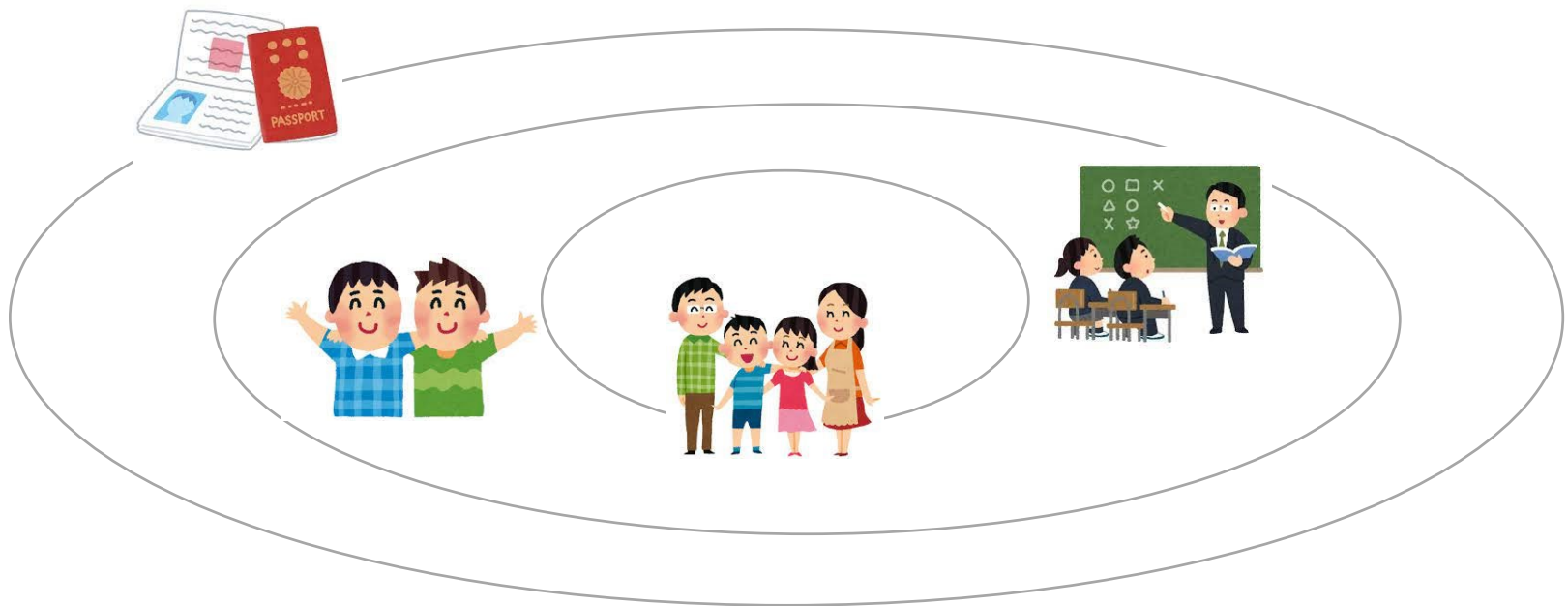


アイデンティティ

- 自分らしさ、自分が自分であること
- どんな時に感じるか？



- 気を使ったり我慢せずに振る舞うことができる時
→“友達”が自分らしくいることを許してくれている時
- 主観だけでなく実際に友達から承認されていると感じる時



- 他者とは重要な他者から社会文化にいたるまで多層
- 様々な他者から承認を得て“自分らしさ”を感じている
- **斉一性**：様々な他者から自他ともに常にその人であると認められている感覚

アイデンティティ

個人が自分の内部に**連続性**と**斉一性**を感じられることと、**他者がそれを認めてくれること**の、**両方の事実の自覚**

全体を総合して
自分らしい、らしくない
と感じている

あ

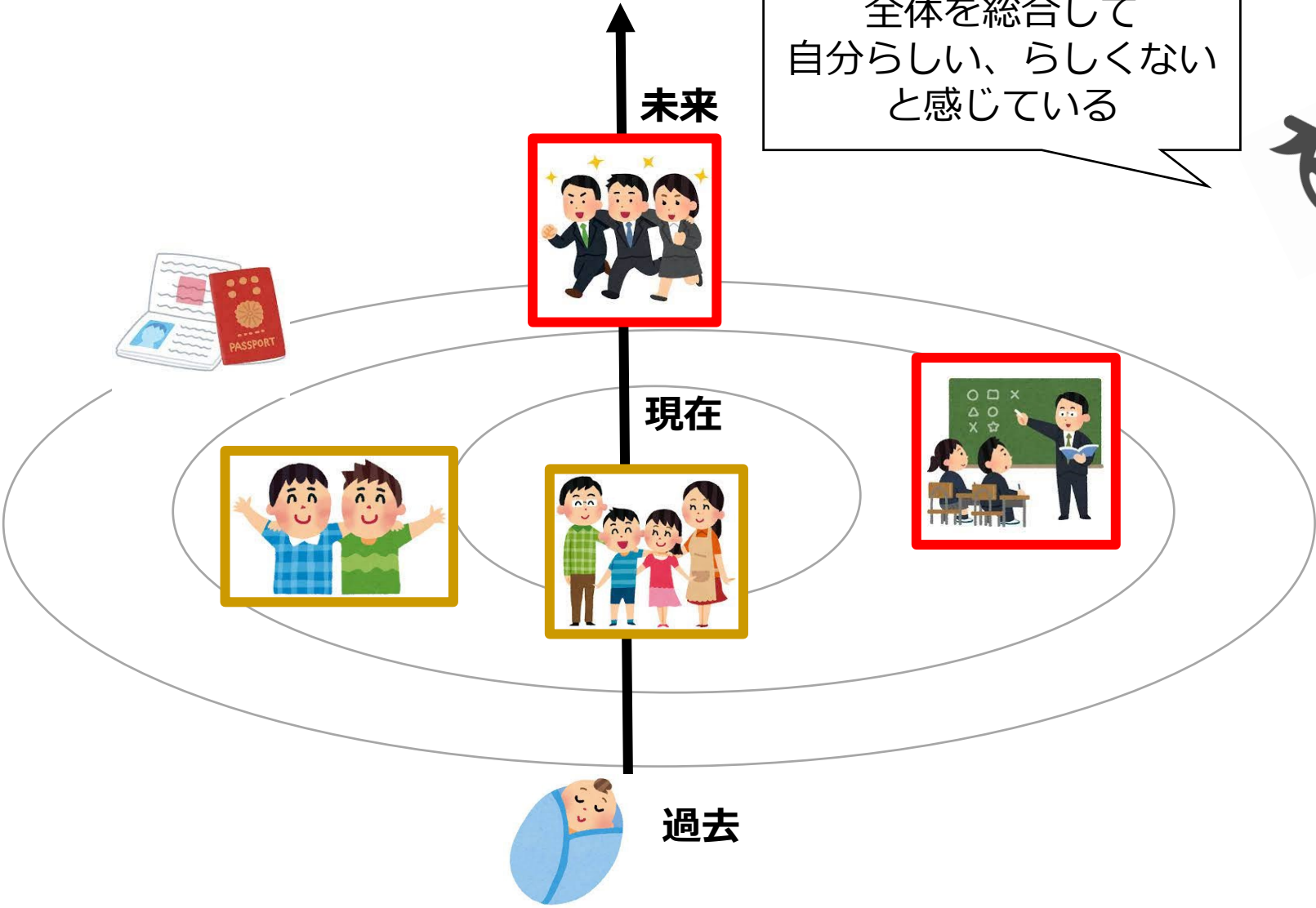
未来



現在



過去



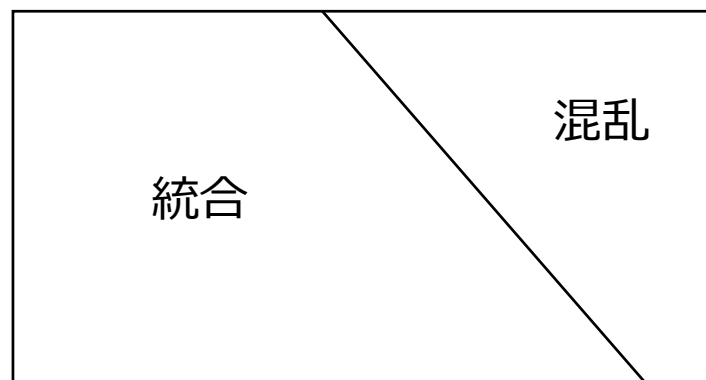
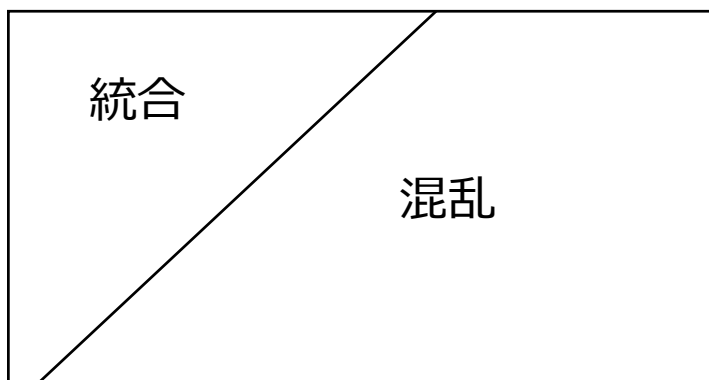
アイデンティティの「対」の関係

- **統合** (synthesis or coherence)

明確な自己の一貫性の感覚、自分らしさ

- **混乱** (confusion)

自己が不明瞭で一貫していない感覚、自分らしくなさ



青年期アイデンティティの発達

青年期：子どもから大人への移行期
*12歳前後から25歳前後

- 職業、パートナーの選択など大人になるためにこれからの自分（**将来**）を探求する時期
- アイデンティティが青年期において発達するのであれば混乱の割合が低下し、統合の割合が高まっていく・・・はず

アイデンティティの測定

以下の項目は普段のあなたの考え方や態度にどの程度当てはまりますか？

1. まったくあてはまらない～5. 非常にあてはまる

代表的な質問項目の内容

統合

私は、自分が何になりたいかをはっきりと考えている

私には人生で重要なことがはっきりとわかっている

私は、自分にまとまりを感じている

私は、自分がどんな人間であるのかを知っている

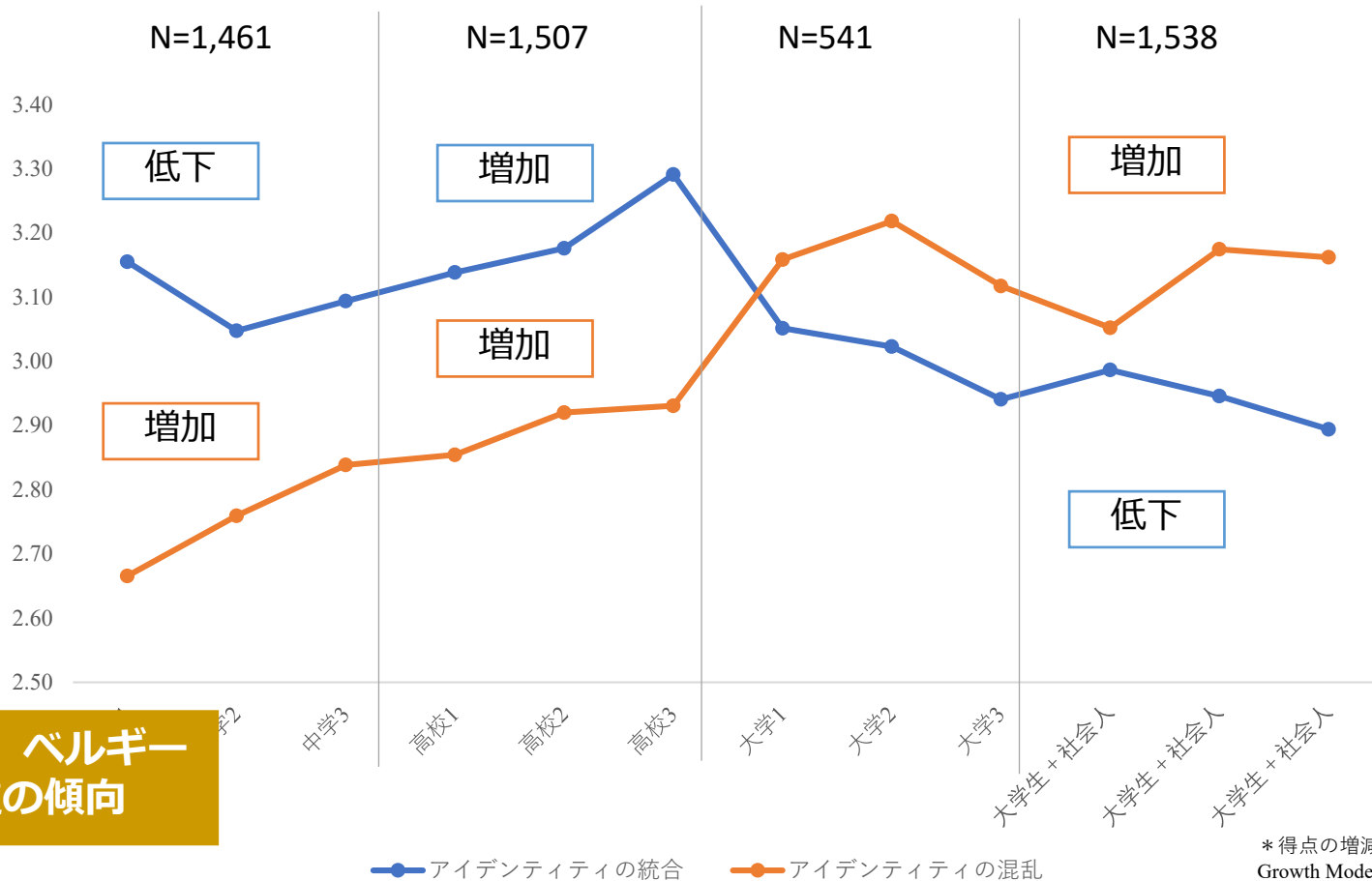
混乱

私は、よく自分の意見を変える

私は、人生をどのように生きたいのかを自分で決められない

私は、自分のしていることを本当はわかっていない

私には充実感がない



オランダ、ベルギー
では逆の傾向

中学から高校にかけては統合が優勢だが大学以降は混乱が優勢になり、その傾向は社会人になっても続く
統合の高さは心理的健康の高さ、混乱は逆の傾向を示す

*得点の増減についてはLatent Growth Modelingで傾きの値に有意差がみられたものを記載

Hatano, K., Sugimura, K., & Schwartz, S. (2018). Longitudinal links between identity consolidation and psychosocial problems in adolescence: Using bi-factor latent change and cross-lagged effect models. *Journal of Youth and Adolescence*, 47(4), 717-730. <https://doi.org/10.1007/s10964-017-0785-2>

Hatano, K., Hihara, S., Nakama, R., Tsuzuki, M., Mizokami, S., & Sugimura, K. (2022). Trajectories in sense of identity and relationship with life satisfaction during adolescence and young adulthood. *Developmental Psychology*, 58(5), 977-989. <https://doi.org/10.1037/dev0001326>

わかったこと、わかっていないこと

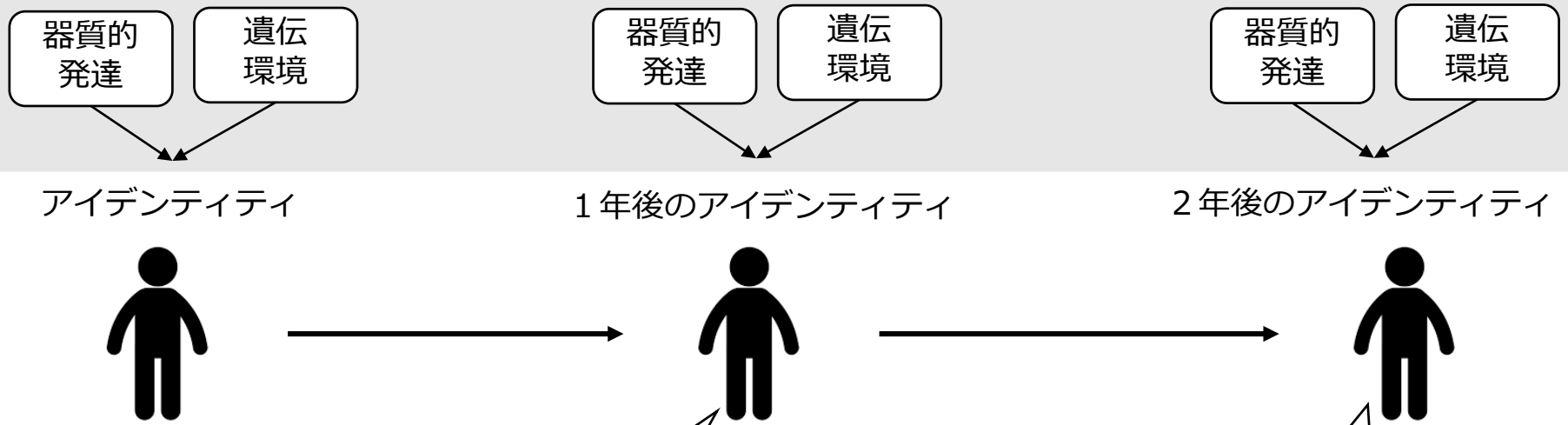
• わかったこと

- 日本では18歳以降にアイデンティティの混乱が高まるにつれて心理的問題もリスクが高まる
- 高校までは勉強と進路がマッチしていることからアイデンティティが明確
- 日本の青年は社会に出て主体的に人生を決めていく力を獲得できていない？

• わかっていないこと

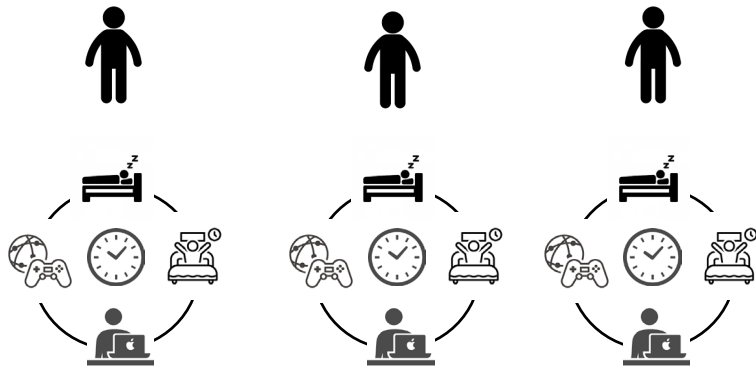
- なぜアイデンティティは変化するのか？
- アイデンティティの感覚とは？
- アイデンティティを支援できるのか？

全般的発達レベル



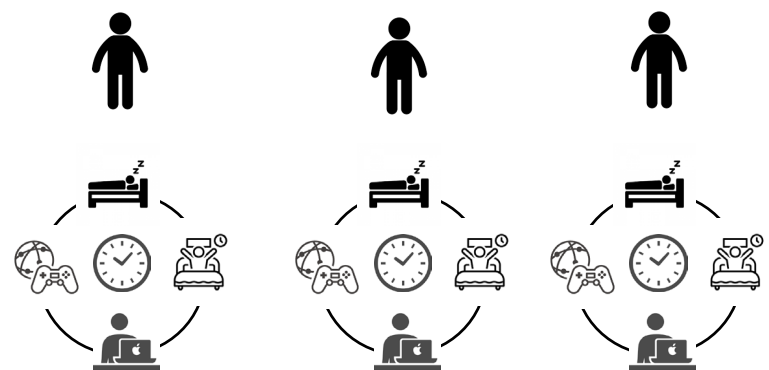
アイデンティティの**メカニズム**の研究を元に
支援するための研究が進められている

アイデンティティ



日常的な行動

アイデンティティ

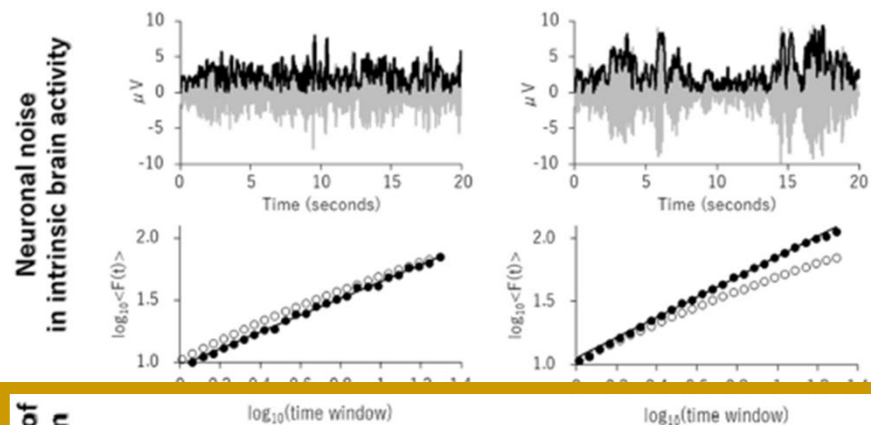
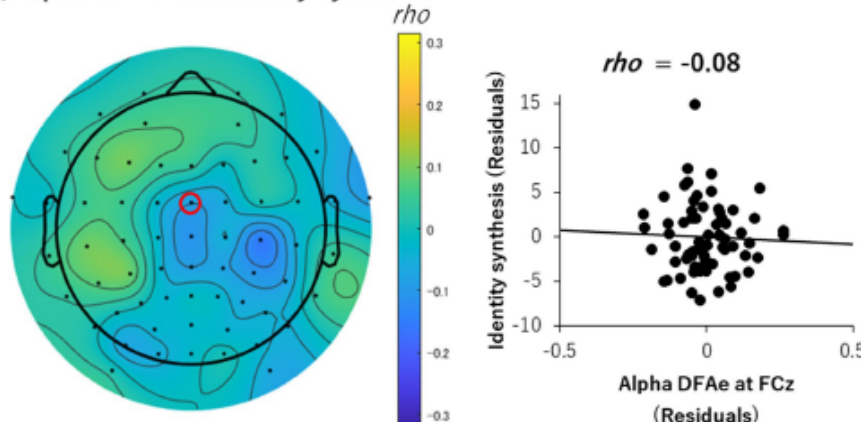


日常的な行動

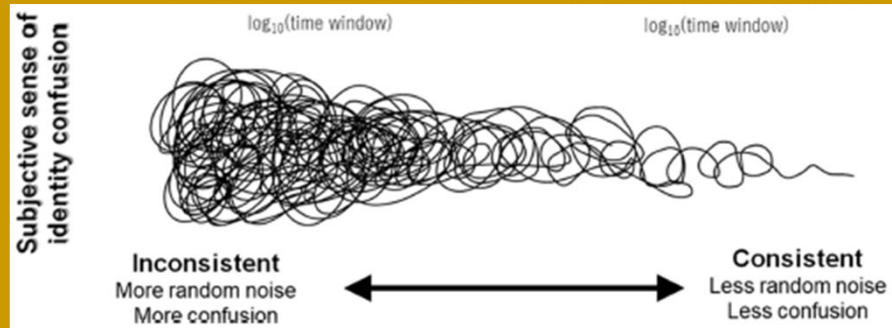
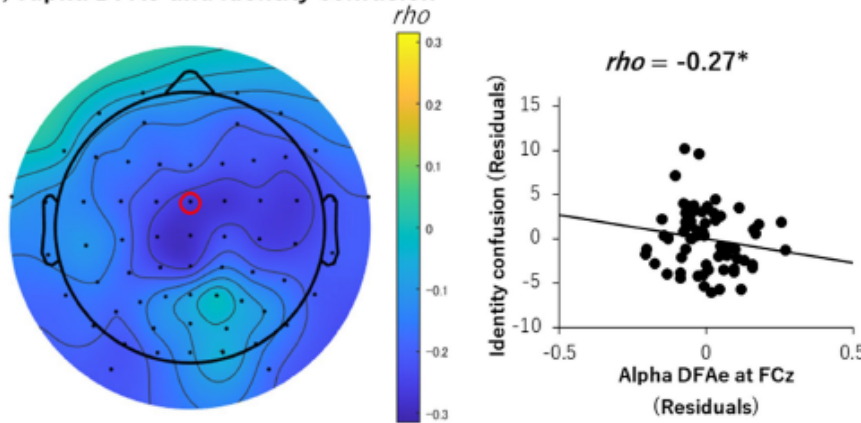


アイデンティティの感覚は脳内機序と関連するのか？

(a) Alpha DFAe and identity synthesis



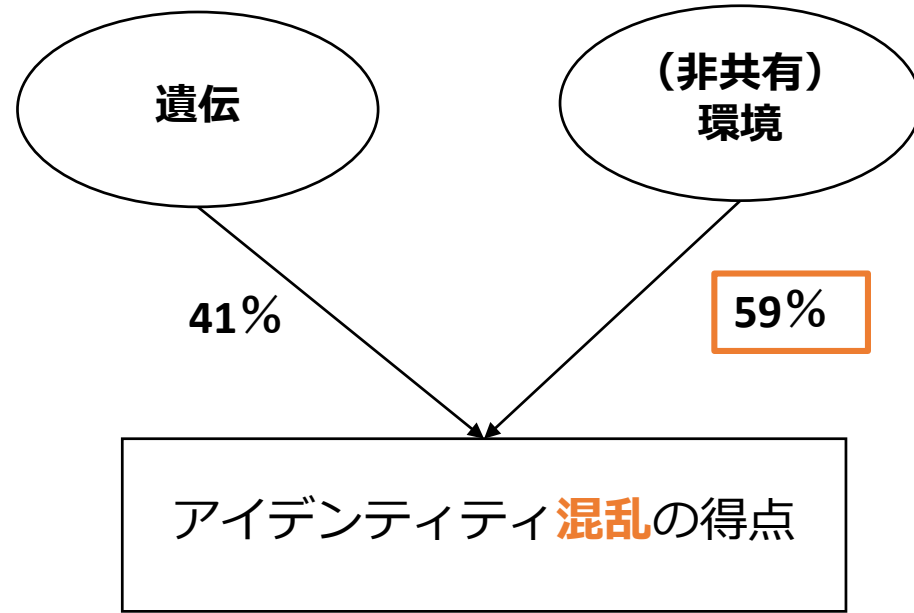
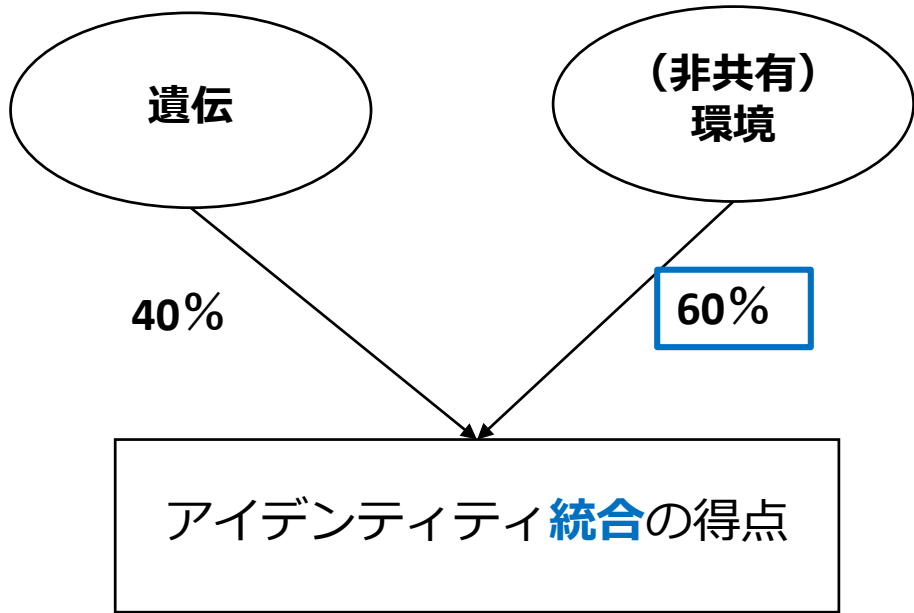
(b) Alpha DFAe and identity confusion



アイデンティティが混乱している人は
前頭葉のランダムなノイズが強い傾向
 →ノイズを抑えるような習慣 (e.g.,
 マインマインドフルネス) が効果的？

Figure 2. Topo maps and scatter plots of Spearman's partial correlation analyses. (a) Correlation between alpha range DFAe at FCz and identity synthesis. (b) Correlation between alpha range DFAe at FCz and identity confusion. *Adjusted $p < 0.05$ (one-tailed). The red circle on each topo map indicates an electrode; the data from which is shown in the scatterplot. Topo maps were created by EEGLAB toolbox (ver.14.1.2b, <https://scn.ucsd.edu/eeqlab/index.php>)⁵³.

アイデンティティの感覚は遺伝・環境にどの程度規定されるのか？



アイデンティティの統合、混乱の遺伝・環境の影響は割合として
遺伝 < (非共有) 環境 → 環境によってその感覚は変わる

* 統合、混乱の指標はそれぞれ identification with commitment, ruminative exploration



全体的なアイデンティティの感覚は日常的な感覚と関連するのか？

長期発達レベル
アイデンティティ

これまでのアイデンティティの測定
以下の項目は**普段のあなたの考え方や態度**にどの程度当てはまりますか？

1. まったくあてはまらない～5. 非常にあてはまる

(例) “私は将来の計画に安心感を覚えた”

日常レベル
アイデンティティ



日常レベルで感じているアイデンティティ
今日、あなたは以下のことをどの程度感じましたか？

1. まったくあてはまらない～5. 非常にあてはまる

(例) “今日、私は将来の計画に安心感を覚えた”

2週間（土日を除く）連続
で測定しその平均値を算出

全体的な統合と日常的な統合の相関係数 = .51

全体的な混乱と日常的な混乱の相関係数 = .40

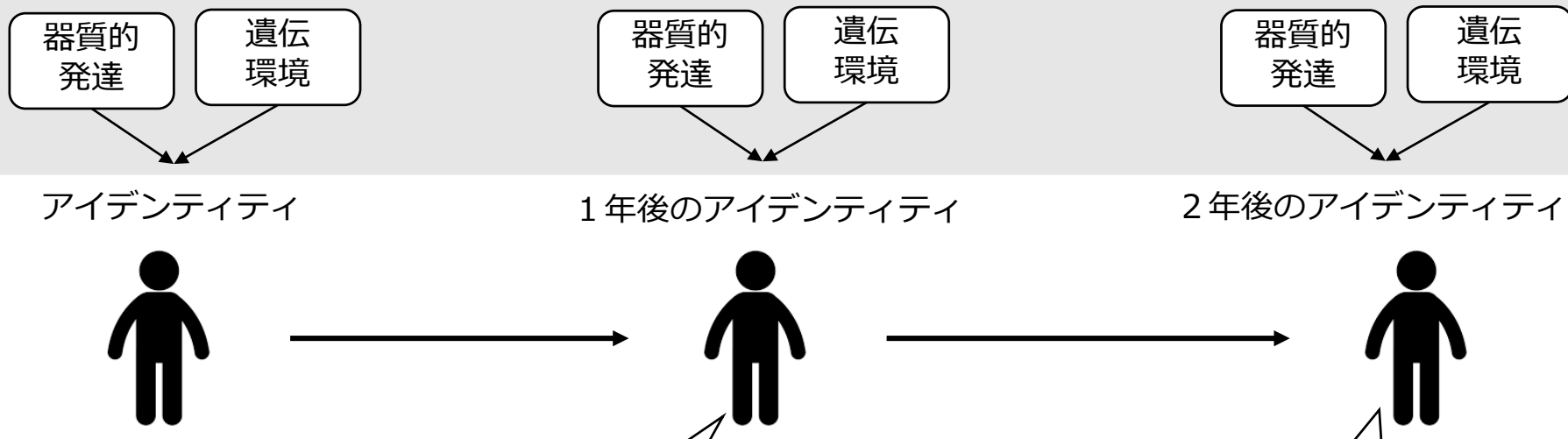
日常的なアイデンティティの感覚を変えることが全体的なアイデンティティの感覚を変える可能性

* 統合、混乱の指標はそれぞれ identification with commitment, ruminative exploration

Hatano, K., Luyckx, K., Hihara, S., Sugimura, K., & Becht, I, A. (2022). Daily identity processes and emotions in young adulthood: A five-day daily-diary method. *Journal of Youth and Adolescence*, 51(9), 1815-1828. <https://doi.org/10.1007/s10964-022-01629-x>

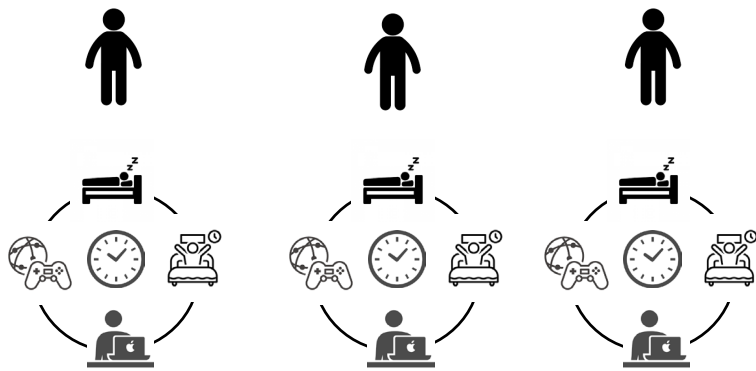
Hatano et al (in prep)

全般的発達レベル



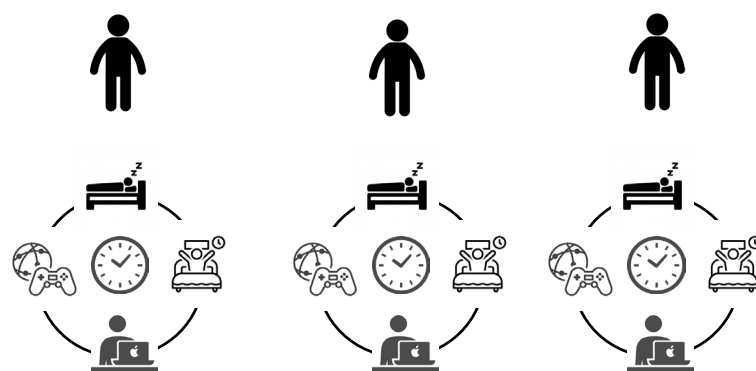
アイデンティティの**メカニズム**の研究を元に
支援するための研究が進められている

アイデンティティ



日常的な行動

アイデンティティ



日常的な行動